

# 開会のあいさつ



(財)集団力学研究所会長  
(株)西日本新聞社代表取締役社長

多田 昭重

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介頂きました多田でございます。

一言ご挨拶申し上げます。皆様方の長年のご協力、ご支援によりまして、このシンポジウムも今年で21回目を迎えることになりました。私自身も、これまで4回ばかりこのシンポジウムのコーディネーターを務めさせて頂いたことがあります。

このシンポジウムは、毎年2月にやっておりまして、毎回非常に熱心な方々が沢山お見えになられて、大変感謝致しております。私自身、この集団力学研究所の会長の職を、昨年より仰せつかっております。

ご承知のように我が国における「集団力学」という研究分野は、一昨年の5月に永眠されました三隅二不二先生が、戦後まもなく、日本で初めて九州大学に講座を開講されたことから始まっております。最初の頃は、小学校の先生の指導性などを中心に、教育の場を研究のフィールドとしておりました。その後、産業界に目を転じられ、当時、九州の産業の中核をなしておりました炭鉱の現場で、研究が進められました。そしてその頃から、「集団力学」という言葉が世間に知られるようになっていったと思います。

そして、やがて、その研究は、地元の西日本鉄道、それから三菱重工の長崎造船所、さらにブリヂストンタイヤなどへと展開されていくこととなります。そして、病院やデパート、銀行など、対象はサービス業の分野にまで広がるようになりました。集団力学は「組織集団」と「人間の関わり合い」を科学的に解明し、その科学的知識の体系化をめざす行動科学であります。その特徴は、現実の企業において組織の活性化をもたらすための具体的・実践的行動の研究にあります。おかげさまで、この集団力学研究所の研究活動は、順調に進んでおりますし、世界的にも高い評価を受けるようになりました。その大きな成果に対して、集団力学の創始者クルト・レビン教授の人の名前を冠した「クルト・レビン賞」という世界的な大賞を三隅先生が1994年に受賞されております。三隅先生は、このことについて、「これは私一人の力によるものではなく、直接研究に関わって協力してくれた人たち、そしてまた、それを周囲から支えてくださった方々のおかげによるものだ」というふうに話されておりました。関係者一同で、その祝賀パーティーを開きましたことを、つい昨日のことのように憶えております。

ところで、我が国は戦後の復興から、経済大国へ進み、そしてまた、バブル崩壊という苦難の時を経て、今日に至っております。この間、世界はIT産業の目覚ましい発達で、私たちは居ながらにして世界のあらゆる情報を瞬時に手に入れることが出来るようになりました。一方、国内

に目を向けて見ますと、このような激しい世界の動きに囲まれて、我が国の社会情勢、経済情勢は大変息苦しい閉塞感に閉ざされた感じがあります。その中で構造改革を旗印として、小泉内閣の下、政治経済・教育・医療・福祉など、いろいろな分野で多面的な議論が交わされております。また、今、中央集権から地方分権への転換も叫ばれております。そうした中で、この九州において福岡都市圏は、国内でも有数の活気の溢れる町として称賛され、「福岡一極集中」とまで言われております。その地理的環境から、アジアとの交流の玄関口としても位置づけられており、これからの発展の手がかりが、今大変注目されるところであります。

この3月には、鹿児島中央駅と八代の間に待望の九州新幹線が開通するという、九州にとってインパクトのある事業が幕を開けます。こうした中で、今日のテーマであります、この「九州・日本、そして世界における福岡都市圏の存在感を改めて確認し、企業における経営資源、とりわけ人的資源の活用と組織のあり方について考える」という、このシンポジウムを開くことになりました。幸いにしてお手元の資料にありますとおり、基調講演、パネル・ディスカッションのパネリストの方々に、素晴らしい人を迎えることが出来ました。この新幹線の物理的な利便性がもたらす人の流れの変化、人の流れに伴う金の流れなど、九州経済にどのような変化をもたらすか、また、そういう中で、地域・企業・そして人の活性化について集団力学的な観点からどういう提言がなされるのか、大変期待され、また興味深いものがあると思います。福岡都市圏のさらなる浮揚、そして九州地域の自立的経済圏の形成などについて、情報をこの場から大いに発信して頂きたいと考えております。そのためには、本日ご参加の皆さまの活発なご意見、提言なども頂きたいと存じます。

最後になりましたが、この企画開催にあたりまして大変多くの方々にお世話になりました。福岡県、福岡市、北九州市、久留米市、(社)九州・山口経済連合会、福岡商工会議所、(財)九州経済調査協会、(財)九州生産性本部、福岡県職業能力開発協会、(社)福岡県中小企業経営者協会、(社)日本産業訓練協会九州支部、(社)西日本工業倶楽部、その他多くの方々のご支援を頂きました。高い席からではございますが、改めてお礼を申し上げたいと思います。本日は大変ありがとうございました。